

レニ 現在



▲レンタサイクルのハンドルに取り付けられたLPWA小型発信機

地図アプリで現在地などが表示されるシステム



観光

組の安(55)ラン

天守閣復興50周年祝う

高島城 記念誌披露や能楽奉納



高島城天守閣復興50周年記念式典で奉納された能楽。写真奥が復興から半世紀を経過した天守閣

高島城天守閣復興50周年記念式典が18日、諏訪市の高島公園で行われた。行政、経済、文化団体の代表をはじめ、復興事業に携わった関係者ら約40人が参加。市民の寄付のみで天守閣を復興した当時の人々の心意気に思いをよせ、記念誌の披露や能楽の奉納で半世紀の節目を祝い、高島城の歴史と伝統を受け継ぐ決意を新たにされた。

式典は高島城祭実行委員会(会長・金子ゆかり市長)が主催。新型コロナウイルスの影響で5月から延期していた第51回高島城祭を兼ね、出席者を限定して開いた。藤色の着物姿であいさつした金子市長は「高島城が諏訪市のシンボルとなり、歴史と

23面に関連記事

伝統をつなぐ核となつて市民に愛され、世界中に発信していくお城として守っていきたい」とあいさつ。大昔調査会の高見俊樹理事長が50周年記念誌を披露し、「ビジュアル的にも楽しめるガイドブックの決定版。高島城と諏訪の歴史を振り返る一助にしてほしい」と期待した。

能楽奉納は観世流能楽師で重要無形文化財総合指定保持者の松木千俊さんが、喜ひと祝福の演目「狸々」を奉納した。会場周辺で市民や観光客が見守り、神秘的な舞に見入っていた。

復興事業に携わった地元の諏訪造園業組合や小和田太子講、旧高島藩主の諏訪家関係者、復興発起人中島篤平の親族、設計者大岡實の研究者らも出席した。諏訪家第15代当主の諏訪忠則さん(57)は「50年前の式典で除幕をしたことが昨日のことのよ

う。50周年は市民の皆さまのおかげ。これからもぜひお守りいただきたい」と語り、地域の発展を願った。

高島城ではこの日、復興50周年記念展「天守復興」が始まり、記念誌(500円)や記念御城印(300円)の販売も開始された。市は来年5月23日までの期中中、市内在住者の入館を無料にしており、天守閣復興までの経過と建築物としての魅力に触れてほしいと呼び掛けている。

(唐沢宏)

八ヶ岳

雪化粧

寒気が流れ込んだ影響で18日、八ヶ岳連峰は主峰・赤岳(2899m)や硫黄岳、夢科山などが雪化粧をした。赤岳天望荘によると、10センチほどの積雪を記録。初雪



の観測は平年並みだが、場所によっては膝上まで積もるといふ。例年よりも積雪量が多く、根雪となる可能性もあるという。同山荘を運営する藤森周

きっかけはめくった先の1ページ

新聞週間

新品種 小平



「Kodaira」と命名された新品種のユリ

「日蘭の希



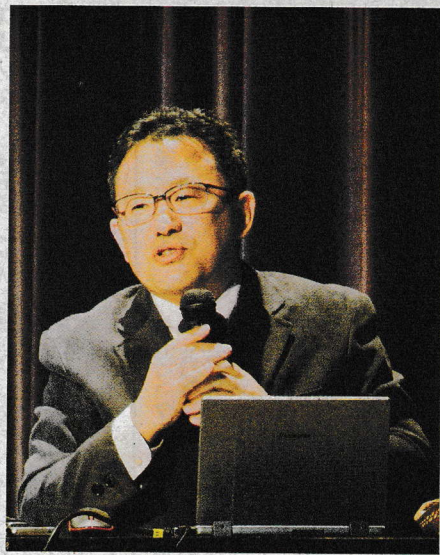
平昌五輪の凱旋パレードで手を
小平奈緒選手=2018年3月、芽

魅力的な「高島城復興天守」

諏訪 工学博士の二村さん語る

工学院大学客員研究員で工学博士（建築史）の二村悟さん（48）＝横浜市＝が18日、「高島城復興天守について」と題して諏訪市文化センターで講演し、復興50周年を迎えた高島城の建築学的な特徴を解説した。歴史的建造物の外観を保ちながらも、鉄筋コンクリート造3階建ての資料館であることに触れ、設計者の意図が反映された近代建築としての魅力を紹介した。

＝1面に関連記事（唐沢宏）



復興天守の建築学的な特徴を説明する二村さん

復興天守の設計は、日本の文化財保護に尽力し、歴史的建造物を鉄筋コンクリート造で表現した建築家の大岡實（1900～87年）が手掛けた。江戸時代の天守復興を望む声もあったが、当時の建築基準法では木造建築の規模に制約があった。二村さんは「展示物を守る役割もあった。鉄筋コンクリート造が最適な選択だった」と理解を示した。大岡は復興天守の3階に展望室を設け、富士山や諏訪湖を望むバルコニーも設置。吹き抜けを中心とした「ひとつながりの大きな空間」（二村さん）には、回遊しながら展示物を見学できる工夫が施されているという。復興天守は「建

築家としての作家性を見る上でも貴重」と評価した。二村さんは「展示施設（復興天守）自体が展示物」とも語り、外観を通して高島城の大きさや藩主が眺めた風景が

追体験できる効果を説明。ランドマークや地域コミュニケーションの核施設として果たしてきた役割にも言及した。講演会は「歩く・見る・聞く諏訪を知る歴史講座（諏訪

市公民館・博物館・文化財係共催）として開き、地域住民ら約60人が聞いた。大岡實建築研究所の松浦隆さんをゲストに迎え、大昔調査会の高見俊樹理事長が聞き手を務めた。

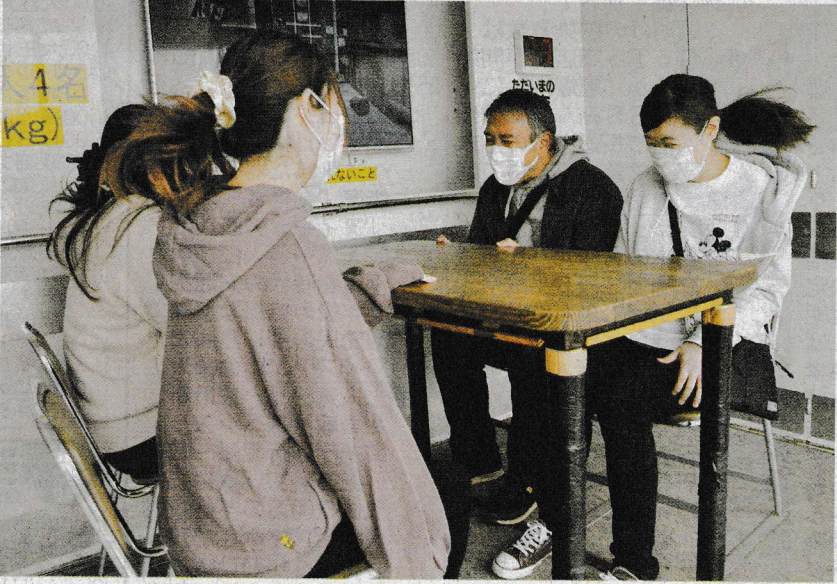
防災意識高揚へ初事

サンリッツロード 地震体験車や講

諏訪市のサンリッツロード商工連合会（相良明広会長）は18日、地域住民らの防災意識の高揚を図る初の事業「セーフティータウンサンリッツロード防災の日」を同市中洲のテナホウ本社駐車場と諏訪トラック会館で開いた。サンリッツロード商店街振興組合が共催。震度7の地震体験や防災講演会などを行った。

市はサンリッツロードにあるホテルチェーンとの間で災害時に施設を避難所として利用する協定を結んでおり、ホテルが避難所となった場合には同連合会と同組合が協力し

地震体験車で震度7の揺れを体感する参加者



波状線

て地域の注
図る飯島町
来いじま
正月用のし
作りを家庭でも手軽に
でもらおうと、わらわ
と説明書をセットにし